

# 令和3年度男女共同参画フォローアップ講座

この事業は、令和2年度に実施した「男女共同参画地域づくり講座」で学んだ「男女共同参画」の重要性が、継続的に地域の活動と共に受け継がれていくことをサポートするため実施しています。

第一地区では「男女共同参画の視点がなぜ重要なのか」という視点を“避難所運営マニュアル”という形で地区に継承していく活動が始まりました。今回は災害時実際に活動班の班長として活動される方に基礎講座を開催すると共に、作成したマニュアルの講評を犬塚協太教授に実施していただきました。

→第1回目では、令和2年度の初回講座にて行った「地域防災力の強化になぜ男女共同参画が必要なのか？」の復習と、近年の課題を講師が紹介。新しく自治会役員として出席された方も新たに重要性について学ぶことができました。



※オンライン通話での講座の様子↑



ついに完成！  
第一地区の  
避難所運営  
マニュアル！

←災害時に備え、避難所と地区センターに置かれます

←第2回目は避難所運営訓練の実践…！を予定していましたが、感染症対策も含めて書面での開催を行いました。

内容は約1年半を通して地区で完成させた「第一地区コミュニティ避難所運営マニュアル」の紹介と、それに対する先生からの講評、参加者と先生の質疑応答の3本立て。新たに誕生した第一地区防災員（男女同数）は、これを受けて更なるマニュアルの向上を予定しているとのこと。

## 犬塚教授のコメント



第一地区が作成した避難所運営マニュアルは、従来の一般的なパターン化したマニュアルに比べ、男女共同参画の視点を生かした実効性の高いマニュアルになっていると評価できると思います。令和3年度は、コロナ禍によりこのマニュアルによる避難所運営訓練が実施できなかったことは大変残念ではありましたが、訓練に代わる措置として「避難所運営タイムライン」の作成及び机上検討まで実施されたことは、第一地区の避難所運営における男女共同参画の視点導入への積極的な姿勢がうかがわれて、大変良かったと思います。引き続きコロナ禍で、当初予定通りに取組が進められないさまざまな局面がありうるかもしれませんが、このように別の方法を工夫するなどして、今後もそうした積極的な姿勢を堅持していただきたいと思います。

発行：沼津市 企画部 地域自治課 協働推進係  
〒410-8601 沼津市御幸町16-1  
TEL : 055-934-4807  
FAX : 055-931-2606  
Mail : kyodo@city.numazu.lg.jp  
(令和4年3月発行)



# ハーモニー

本市では、地域の皆さんの協力を得ながら、様々な地域活動を通して、男女共同参画意識の浸透や定着化を目的に取り組んでいます。令和2・3年度は、第一地区コミュニティを対象に男女共同参画の視点の必要性について認識を深め、男女ともに地域活動に参画できるよう、講義とワークショップを行いました。

今回、この2年間の第一地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成しましたので、皆さんにお届けします。今後の第一地区の地域活動の参考にしていただければ幸いです。

## 第一地区 男女共同参画地域づくり講座

講座には、連合自治会、単位自治会の会長・副会長、地区社協、防災指導員、婦人会、日赤、子供会の方々等を中心に、約30人の皆さんにご参加頂きました。

静岡県立大学国際関係学部の犬塚教授を講師にお招きし、前半は、「男女共同参画とは」・「東日本大震災の避難所での実例」の講話を中心に、後半は避難所設営シミュレーションなど、地域の防災活動に「女性の視点」を入れたワークショップを行いました。



### 地域の活動で女性が力を発揮するには

地域の役員は年配の男性ばかり、同じようなメンバーで負担も増えて…「早く交代したい、若い人や女性にも任せたい」という人も多いです。ですが、なり手もない。それはなぜか？「今までのやり方」では若い人も女性もなりたくないし、家事・育児・仕事に追われて時間がないのです。女性の力が発揮できるためには、今までの仕組み・組織・慣行を

変えていく準備をして、女性が実務を経験する場を増やし、「この仕事なら今の生活の延長でできる」と考えてもらう必要があります。いつも決まった男性で意思決定、女性は補助的な役割ばかり…これでは住民の皆さんも当事者意識がなくなり、人ごとになってしまいます。誰もが無理なく、男女共に主役となって課題の解決を図る経験の繰り返しこそが、個人の能力が発揮できる地域活性化の秘訣となるのです。

「がむしゃらにやる」やり方は見直し、男女共に地域でも家庭でも活躍できる環境へ！



犬塚教授



第1回目（令和2年8月21日）

男女共同参画について、「そもそも何？」「なぜ必要なの？」を犬塚教授から講義頂き、男女共同参画の視点からの「防災基礎クイズ」を行いました。

男女共同参画の視点からの防災  
6つの基本方針

1. 平常時からの( **男女共同参画** )の推進が防災・復興の基礎となる。
2. ( **女性** )は防災・復興の「主体的な担い手」である。
3. 災害から受ける影響やニーズの( **男女の違い** )に配慮する。
4. ( **男女の人権** )を尊重して安全・安心を確保する。
5. ( **女性の視点** )を入れて必要な地域での連携・協働体制を構築する。
6. ( **要配慮者** )への対応についても女性のニーズに配慮する。

平常時から  
「男女ともに」



第2回目（令和2年9月25日）

男女共同参画の視点からの防災「避難所チェックシートクイズ」と題した穴埋め問題を行いました。グループに分かれて話し合い、「避難所生活には何が必要か」を考えます。女性からは「授乳室が必要」と素早く回答する場面も。他の人と話し合うことで、多様な意見に気づき「なるほど」、「あーそうかも!」という声があいふつも出ていました。

男性トイレと女性トイレは  
離しておかないといけないね

授乳室を  
用意しないと

色んな意見が出て  
参考になる

実際の避難所を  
想像すると不安に…  
これはいい機会

犬塚先生のアドバイス

- ・ 間仕切りでプライバシーを確保するのが大切です。
- ・ 生理用品等の配布は女性が行うなどの配慮を。物資の配布も男女共に行いましょう。
- ・ 炊き出しは重労働なので、女性だけに集中しない体制を作りましょう。
- ・ 防災会議などは3割以上を女性にして、意見を反映しやすい体制にしましょう。

避難所  
チェックシート  
で何が必要な  
のかを確認!



第3回目（令和2年11月27日）・第4回目（令和2年12月11日）

第3回目・第4回目の講座では、男女共同参画について、深まってきた知識を地域の避難所運営に活かします!!

「設営避難所運営に関するシミュレーション」と題して、第一小学校の体育館を避難所として、施設の見取り図に縮尺を合わせた防災備品パネルを並べ、グループごとに避難所レイアウトを検討し、みんなで発表しました。どのグループも工夫が凝らされており、学ぶ点が多くありました。

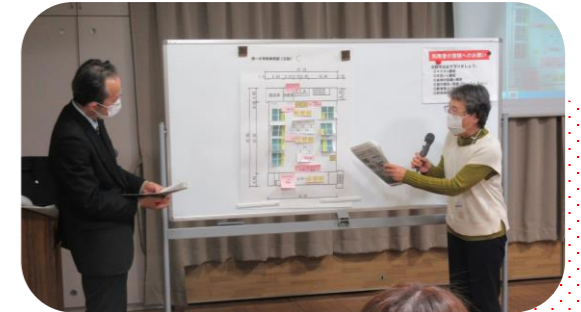


↑ 男女の意見を入れながら、安全で  
過ごしやすい避難所を考えていきます



↑ 実際の体育館と縮尺を同じにした  
トイレや間仕切りを配置しました

緊急時、安心・安全な  
避難所が作れるか？



発表の様子



【各グループの工夫した・良かった点(一部)】

- ・ 女性は所要時間が男性より長くなるため、トイレの数を男性トイレより多く配置した
- ・ 女性トイレと男性トイレを離れた(犯罪リスクの軽減につながる)
- ・ 高齢者等の生活スペースの近くにトイレを設置した
- ・ パーテーション入口の向き等プライバシーを大切に配置
- ・ 小さな子供を育てる人たちが苦にならないスペース配置の工夫。…等

【さらに考える必要がある点】

- ・ 性的マイノリティの方への専用スペースを用意すると、知られたくないために利用できない人もでてくる。ただし、「本人の希望に応じて配慮する」という姿勢はとても大切。
- ・ 掲示板の言葉は、様々な避難者が来ることに配慮して、誰にでも分る「やさしい日本語」(または外国語にも対応)を考えておく必要がある。
- ・ 更衣室はパーテーションの天井をふさぐか、ステージの上等、覗かれにくい高い位置に配置する必要がある。
- ・ 開けた場所に相談所がある場合、込み入った相談内容では利用できない。
- ・ 相談場所は(気づきにくいというデメリットもあるが)ひっそりとした場所にも必要がある。…等

多様な意見を  
地域の防災に  
活かす実践